

# 東芝、Babel Street Matchで 社内輸出管理体制を強化

技術や製品がテロリストの手に渡り、武器として使用されるのを防ぐため、主要国は安全保障上のリスクをもたらす組織や個人との取引を制限するためのウォッチリストを公表しています。また、民間企業でも、同様のウォッチリストを作成するところが増えています。

東芝は、全世界で約12万人の従業員を擁する多国籍コングロマリットです。エネルギー生成、小売、ビジネスソリューション、家電製品をはじめ、さまざまな事業を展開しており、その製品の多くが厳しい輸出規制の対象となっています。

東芝は、輸出コンプライアンス強化のため、取引制限の対象となっている企業・団体を表示するシステムを独自に開発しました。

## 課題

東芝はグローバルに事業を展開しているため、個人名や組織名の照合を複数の言語や文字で行う必要がありました。

言語照合システムやアイデンティティ照合システムを評価する中で、以下のような課題に対応できるシステムが必要であるということが判明しました。

- ウォッチリストは、追加や更新により日々拡大し、変化する。
- 手作業による照合と検証には膨大な時間がかかり、業務として続けることはできない。
- 名称の表記が言語間で大きく異なるため、検出漏れや誤検出が発生する。
- 部分一致検索やパターン一致検索の利用には限界がある。

## ソリューション

東芝では、以下の手法を用いて照合と検証の精度を高めるため、Babel Street Matchを採用しました。

- 音韻
- 機械学習
- 名称に関するさまざまな現象に対応するアルゴリズム

Matchは、特にアジア言語の扱いに関して、他社製品よりも明らかに優れていました。

- 入力データに誤字、脱字、表記ゆれ、スペルミスがあっても、ウォッチリストの中から該当する候補が見つかり、類似度スコアが提供されます。
- ラテン文字で書かれたウォッチリストは、日本語の漢字、ひらがな、カタカナ、中国語の漢字、韓国語のハンジャ、ハングルを含む他の言語との照合・検証が可能です。

- 別名、ニックネーム、イニシャルはあいまい照合で検出できます。
- 日本語に関して、Matchでは旧漢字と新漢字の照合が可能です。

## 効果

東芝では、Babel Street Matchのアイデンティティ照合機能の導入後、手作業や目視によるウォッチリストの検証漏れが大幅に減少し、それに対応して照合効率が向上しました。



Babel Streetは、信頼あるテクノロジーパートナーとして、世界最先端のアイデンティティインテリジェンスとリスク対策を実現します。Babel Street Insightsプラットフォームは、リスクと信頼のギャップを埋める高度なAIとデータ分析ソリューションを提供します。

Babel Streetは、言語を問わずにすぐに分析に使える最高レベルのデータを提供し、プロアクティブなリスク特定、多面的なインサイトの取得、高速自動処理、既存システムとのシームレスな連携を実現します。政府機関や企業が、身元の特定やリスクに関するハイリスクな業務を戦略的優位性に転換できるよう支援します。

詳しくは、[babelstreet.jp](https://babelstreet.jp) をご覧ください。